

サークル紹介

＊フラダンスサークル＊「ミノアカ」

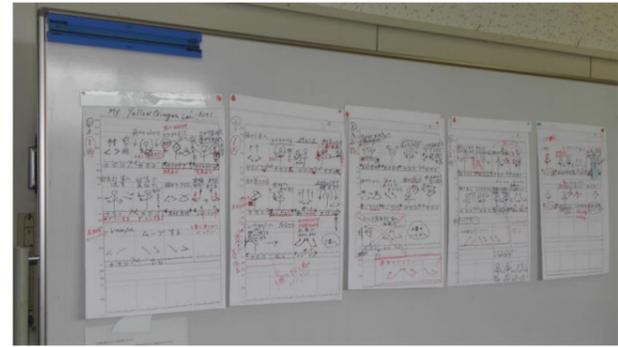
フラダンス『ミノアカ』サークルについて紹介します。(ミノアカの意味はハワイ語で笑顔です) サークルは、H27年7月から準備をして、8月から初心者クラスとして、須江道子さんを講師に迎え、橋本待子さんがサークル代表者6名のサークルメンバーで、狭山台公民館での活動することで発足しました。▼H27年11月1日(日)に開催された文化祭を目指し、4ヶ月間一生懸命練習しフラの発表をすることが出来ました。▼右が『ハワイアンズ フラ アイズ』の曲を練習成果として踊った文化祭の思い出の写真です。



H27年の文化祭発表会光景



須江先生の指導でフラを学ぶ光景



フラの『踊り譜』で振り付け練習

『ミノアカ』サークルは、毎週木曜日の10:00～11:30に活動しています。▼フラは日本ではよく「フラダンス」と言いますが、フラとは元々「ダンス」という意味です。ハワイの踊りのことを呼ぶ時には「フラ」が正式な呼び名です。▼フラは体幹を鍛えるので健康づくりに良いとのこと。▼フラの練習はテープレコーダーから流れる美しい曲の音色に合わせて、『踊り譜』に明記された手足や体の動きで、軽く膝を曲げて腰を落とし、肩の位置は変えないように足裏全体を地面につけて動きます。足腰の筋肉が痛くなりますが、筋肉が付きますとの説明がありました。(踊り譜とは、音楽に「楽譜」があるように、踊りにも「踊り譜」があり、どのような順序・振り付けで踊るかが表現されています)。▼サークルメンバーの一人は『フラを初めてから、姿勢が良くなった』と云われるそうです。今年の文化祭に向けて、現在3曲のフラを猛特訓中とのことでした。フラに関心のある方は見学をしてみても如何でしょうか。▼有酸素運動が筋トレになり、また精神衛生面でも大変良い印象を受けました。 村上記者

◆◆◆◆狭山台書道愛好会◆◆◆◆

訪ねた日は夏の最中ではあったが、欠席がひとりで5人の会員が勉強中で皆さん活発に作品の講評を展開していた。この会の先生は、埼玉県書道人連盟の顧問をしておられる関根東湖先生です。狭山台公民館の開館当初から設立されたサークルです。

毎月の提出課題を選別一半紙課題を選ぶ

先生の机の上には自宅で書いてきたという作品が数点並べられ、めぼしい作品について「この作品は線に勢いがあっていいね」「この作品は筆の扱いによくくらいついてるね」「この字はふところが広くていいね」「まとまりからはこの作品が1番いいかな」と講評が進み各自の作品を選ぶ。

条幅課題を選ぶ

次に長い半切に書いた作品をボードに張りだして並べ、同じようにそれぞれの作品についてみんなで見合い、講評し1番いいという作品を選んだ。書いた当人から「この字がうまくいかなかったんですが」という問いには、先生が「1つの字にこだわらずに全体の出来が大事なので気にしないでいいですよ」という指導があった。「手本と比べるとここがうまくいっているね」「ここはうまくいなくていやなんです」との本人の評には、「自分で良いと思っている作品はやはりいいね」との先生の言葉で1番良い作品が決定。こうして選んだ作品を会誌に提出するという。

会の学習法

この会では全国的に2000人ほどの会員に発行されている会誌があり、毎月漢字・かなの作品、年4回条幅作品を投稿することにより、自分の作品が評価され段級が決まってくる。その段級により書く課題はそれぞれ違う。先月の課題では優秀作品として、作品が写真掲示になった人もいたそうでそれが励みになっている。今月はここ狭山の先生が会誌の手本を書いておられた。

次の課題は

一通り選別が終わると、これから提出する予定の課題作品の添削の開始。ここでは先生が丁寧に一つ一つの字を朱墨で筆を加えながら注意点を指摘していく。途中お茶を飲みながらも先生の添削が続く。条幅作品についても一つずつ「これは全体に調子よく書いていて良い作品になっている」「これはにじみが多くて重いね」と指導が続く。「ここが2画になっているけどどうですか?」との問いには、「これは2画でも3画でもいいんですよ」「この字は上に行き過ぎるからもっと下にさげて」とよりよい作品に仕上げるアドバイスが次々と出てくる。

先生はつい先日、銀座での展覧会を終えたばかりだそうであったが精力的な指導が続けられていた。 牧野記者



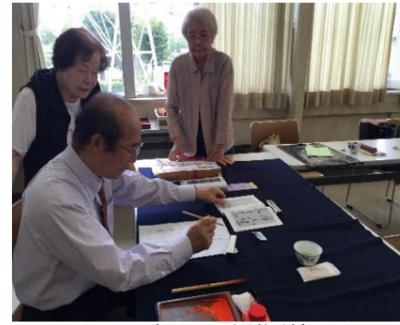
出来はどうか?



どれもいい作品♪



月々の課題の載った会誌



丁寧に添削指導